

平成27年度

第60回 長野県中学校連合教科研究会

美術科

目 次

I 研究テーマ	1
II 研究の趣旨	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名	1～2
IV 研究問題と協議内容	2～8
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	9～10
VI あとがき	10

I 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ表現と鑑賞の活動はどうあったらよいか

II 研究の趣旨

「生きる力」をはぐくむことを念頭に、美術の授業でどのような資質や能力が育っており、また、今後さらに育てなければならない資質や能力はどのようなものであるかを明らかにしたい。各校におけるつける力の決めだしと、つける力をつけるための表現や鑑賞の手だてやカリキュラムのあり方を生徒の具体的な変容の姿から究明していきたい。

III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

第一分科会

指導者	赤羽 勲夫 先生 (長野県教育委員会教学指導課指導主事)	
司会者	常田 浩二 先生 (信濃町立信濃中学校)	
記録者	塚田 香織 先生 (長野市立櫻ヶ岡中学校)	
世話係	鈴木 大三 先生 (附属長野中学校)	
立科町立 立科中学校	工芸分野の単元展開について。(「世界の秘宝 - 七宝焼きの輝きに魅せられて -」(2年))	齊藤みなみ
原村立 原中学校	ものの見方や感じ方を深めながら表現活動に取り組むための指導はどうあったらよいか。(「My 金屏風」(3年))	三宅 和美
伊那市立 西箕輪中学校	自らの考えを大切にして、構想や表現を深めるための指導はどうあったらよいか。(「スクラッチボードで自分の心を表現すると」(3年))	小口 紫音
喬木村立 喬木中学校	鑑賞「日本美術」について	今井 佳奈
須坂市立 相森中学校	導入において生徒が意欲的に取り組めるような学習課題の設定(発問計画、示範など)のあり方について。(「お世話になった人のために焼き物作品を作ろう」(2年))	田中 仁
中野市立 南宮中学校	人やものとかかわり合いながら、表現・鑑賞の基礎的な能力を身に付ける指導・支援のあり方(「はさみの構成」(1年))	久保田 芳
長野市立 櫻ヶ岡中学校	『感じて、見つめて、考えて。』生徒が表したいものをより創造的に表現するための指導における、素材を生かしてデザインするための、構想を練る力を高めていく指導のあり方。(「水のデザインTシャツ」(2年))	塚田 香織
信濃町立 信濃小中学校	表現主題を中心にすえて、表現を追求していく指導のあり方。(「とっておきのメモリアルなラベル2020」(3年))	常田 浩二
信州大学教育学部 附属長野中学校	作品に対する自分なりの思いや考えをもって鑑賞する力を高めていく指導のあり方。(「発見!ミレー絵画の魅力」(1年))	鈴木 大三
信州大学	レポートなしの参加	大島 賢一

第二分科会

指導者	倉澤 啓 先生 (長野県総合教育センター専門主事)
司会者	高野 菊丸 先生 (塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校)
記録者	林 理佐 先生 (伊那市立春富中学校)
世話係	鹿野 耕平 先生 (附属松本中学校)

佐久市立 臼田中学校	絵の具を厚く塗り重ねたり、グリザイユを用いた透明水彩風の着彩と、相反する二つの技法をもとに混色や重色による陰影に重点を置き、微妙な色合いが醸す立体感を表現するための手立てについて。	丸田 岳大
上田市立 丸子中学校	絵画分野の題材で、形や色彩、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情を理解するための指導のあり方。	羽田 光
岡谷市立 岡谷北部中学校	構成を捉え、強調するところを考え、つくる道すじのイメージをもって取り組める題材や、具体的な手立てについて。	青木 香織
伊那市立 春富中学校	レポートなしの参加。	林 理佐
塩尻市辰野町中 学校組合立 両小野中学校	生徒の実態に合わせた題材の工夫や、モチーフの単純化や強調を考えるための具体的な手立てについて。	高野 菊丸
千曲市立 更埴西中学校	生徒が自分の表現を実感していく場、題材の設定や声かけ（評価）のあり方。	千原 厚
須坂市立 常盤中学校	「見る」→「知る」→「考える」を通した鑑賞授業の在り方。友達との意見交換の中で「考えを深めていく」ことのできる鑑賞授業の題材について。	臼田 裕太
長野市立 西部中学校	他者を意識し、他者と関わり合いながら表現への構想力を高める授業の在り方。意見交換の具体的な手立てについて。	藤本 信彦
信州大学付属 長野中学校	第1分科会に同じ	中村 拓
信州大学付属 松本中学校	相手意識をもって作品を見返し、検討を重ねて相手の喜ぶ形に近づけていく中で、「相手のため」が次第に「自分のために」となる題材の工夫や、電動工具を多く用いる場合の環境面での工夫について。	鹿野 耕平

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会】

『生徒が意欲的になる支援について』

1 討議題1 「生徒につける力を明確にした題材展開や支援」

(1) 「人やものとかかわり合いながら表現・鑑賞の基礎的な能力を身につける指導・支援の在り方」(南宮中学校)

①研究内容

自然物の構成は難しいため、はさみを構成した。トレースをして、画面構成に重点を置く。型紙準備は時間がかかりマイナス面も。試行錯誤の時間が多いことはじっくり取り組む力をつけるには有効であったこと、絵が得意ではない生徒もトレースはよかったことが成果である。

②協議内容

はさみは平たいのでトレースしやすいよさはあるが、さらにモチーフを4つくらいに広げると表現の幅が広がる。学習課題は、前回の課題の解決方法を生徒数名にあげてもらい、そこから設定する。教師の参考作品は着彩の段階で紹介したが、着彩の支援がさらに必要である。

(2) 「生徒が主体的に発想・構想に取り組める授業の在り方」(立科中学校)

①研究内容

七宝焼きで、ピンバッチ等実用性のあるものを制作した。七宝焼きの歴史から、作り方や色味の違いについてまで学んだ。七宝焼きの色の美しさを追求してほしかったが、生徒のロゴやイラストを描きたいという思いとずれた。発想・構想の時間を十分取っていない部分が反省点。

② 協議内容

焼くことで変わる七宝焼きならではの色の変化を楽しむ活動にしてもよかったか。また、アイデアスケッチは必要ないかもしれない。主体性を高めるために、3年生の題材としてお世話になった方への贈り物として扱えるのではないか。

2 討議題2「導入において生徒の意欲を引き出す教師の示範や学習課題の設定」

(1)「生徒一人一人がわかる・できる・粘り強く高めあう授業の在り方」(相森中学校)

①研究内容

焼き物で、オープン陶土を使い180度で焼ける手軽さを生かした。参考作品をもとにペン立て、カップなど形、色を自由に設定する。板づくりから行い簡単な作品をつくる練習の時間をとった。グループ制作活動を行ったが、積極的に意見交換ができる場を設定するにはどうしたらよいか。

②協議内容

グループ討議では「誰に贈る」を中心に贈り手の好みに合っているかどうかについての意見交換にしてはどうか。また、グループ活動を行うには日ごろからのグループ活動が必要なのではないか。一方で、グループにせずともお互いの作品を見て感じ取りあう学び合いもある。

(2)「友との関わりの中で自己の発想に自信を持ち、意欲的に制作や鑑賞を行うことのできる授業の在り方」(喬木中学校)

①研究内容

仏像の表情などを調べていく活動を取り入れることで、興味をもつのではないかと考えた。いくつかの仏像の写真を分類して図鑑のようにする。写真の仏像を見比べて自分なりの共通点を見つけ、4つに絞り出す。

②協議内容

グループ討議で出た意見を全体発表する際に、自分の思いが消えてしまうこともあるので、全体発表は個々の意見を端的にまとめて発表するとよいのでは。鑑賞の最後が答え合わせにならないようにしたい。自信を持つために、4つと限定せず好きに分類してもよいのでは。分類の仕方の説明が明確になれば、そこからの学び合いがあるだろう。

3 指導者助言1

○題材と指導について

初めての題材、イメージのしにくい題材については、数年の積み重ねで指導法も見え、生徒も先輩の作品からイメージができる。また、教師が教えることは何で、考えさせることは何か。限られた時間でも用具の使い方や安全面に関することは教え込む必要がある。しかし、色や形など[共通事項]に関することについてはじっくり考えさせたい。

○意見交換について

意見交換については、どのようなときに必要となるのかを問いたい。自分たちの教科では、最終的には自分の力で課題を突破していく姿を願っている。意見交換を教師がさせてもそれなりに子どもは話すが、必要を感じると話し合いを自然に始めている。これが子どもの実際の姿。時間数が限られている中において、話し合い活動を無理に位置づけなくても美術では学び合いが成立するとい

う実践を発信していけるとよい。

○学習課題について

完成作品だけでなく、過程や題材を通して育てる力について明確にして、美術の授業として大切にしてほしい。学習課題は先生がすえがちで、生徒の興味や思いとずれてしまうことがあるので、生徒から出てくることが大切である。導入のやり取りの数分間やワークシートをもとに、生徒と共に学習課題をすえていってほしい。

○鑑賞からの生徒の学びについて

鑑賞では分類、比較するのは大切な学習活動だが、そこにとどまるのではなく、比較や分類の課程で何が語られているのかが学びであり大切な部分。鑑賞が深まるとは、本物を見た時に「いいなあ」という思いがじんわりと染みて深まるような思いができるということなのではないだろうか。

『生徒の思いや考え、表現を深める支援について』

4 討議題3「主題をもち、発想する力や構想を練る力を高め、表現していくための手立て」

(1)「題材に興味をもち、粘り強く制作に取り組むための指導の在り方」(西箕輪中学校)

①研究内容

写実的な表現以外のよさに触れられるようにするために、3年生で曼荼羅制作を行った。[スクラッチボードで彫ると透ける模様の図版](市販の参考作品)をベースに自分で明暗や模様の継ぎ足しを考え創意工夫していく。ステンドグラスのような美しさがあり、生徒も意欲的に取り組めた。

②協議内容

今回は技法の楽しさを学んだようだが、心を追求するか技法を追求するか。絵や彫刻か、工芸デザインかで指導が分かれると思う。今回、集中して取り組む力や試行錯誤の上に積み重ねていく力がついた。このような学習を行えば、その後、例えば写生会のように正確にしていねいに描いていく活動でも生きてくるのではないか。

(2)「素材を生かしてデザインするための構想を練る力を高めていく指導の在り方」(櫻ヶ岡中学校)

①研究内容

水という多様な動き、場面があるものからテーマを設定し、ストーリー性をもたせたり画面構成を工夫したりしてTシャツのいろいろな面に構成する。迷った末、似通った構成になる生徒もいたことから、どのように構想を練る力を高めればよいか。

②協議内容

水しぶきとドリッピングやスパッタリングなどは合うので表現技法も取り入れてもよいのでは。また、Tシャツという多様な面を生かすことで表現の幅が広がった。作品を乾かすために吊るすことで、次のクラスが見て、お互いの刺激になっている。このような自然な学び合いが美術にはある。

(3)「制作過程における表現主題の追求の在り方」(信濃小中学校)

①研究内容

授業の中で表現主題を深めていけるような活動を取り入れたいと願った。サンクゼールと提携して成人式用のワインのラベルを考える題材「とっておきのメモリアルなラベル2020」を行う。未来の自分を想定して、表現主題に沿って表現を追求している姿が見られている。

②協議内容

ラベルなので小さい画面。曲面なので、中心をどう見せるかななどを意識させるとよい。生徒

は、瓶の色やワインの色との相性を意識する姿も見られたので意識は高い。成人式を迎える 5 年後の自分を考え、そこから表したいものを表していた。

5 討議題 4 「自分なりの思いや考えをもって鑑賞したり、ものの見方や感じ方を深めて表現したりする力を高めていく指導」

(1) 「ものの見方や感じ方を深めながら表現活動に取り組むための指導の在り方」(原中学校)

①研究内容

鑑賞と制作のつながりを考え、第 1 時に 3 種の風神雷神図屏風を鑑賞した。ろうそくのもとで鑑賞を行い、班によって作者の違う作品を置き、意見交換後に作品の共通理解を図った。制作では、プッシュカラーという教材を活用。粉を筆に付けて彩色することもできる。

②協議内容

モチーフについては、屏風なので和風という意識はあった。修学旅行の思い出を作品にしていた。鑑賞は「なぜこの色か、この配置か」を最後にすえた方が次の授業につながるのではないかと。そして、屏風の配置をする活動の直前にこの授業をもってくるとさらに効果的だったのでは。

(2) 「作品に対する自分なりの思いや考えをもって鑑賞する力を高めていく指導の在り方」(信大附属長野中学校)

①研究内容

鑑賞では美術作品を、自分の感性を頼りにして様々な角度から考えてほしい。教科書に掲載されている作品や作家を取り上げることで身近で扱いやすいように考えた。ミレーの『種をまく人』は 5 枚、そのうち有名なものは 2 枚。サロンに出品したものを、紹介文をもとに考えていく授業。

②協議内容

手だてとしての iPad は普段、友の作品の途中経過を参考にしたりアニメーション制作に活用したりする。参考文献はミレーの本を複数参考にし、美術館に足を運んで学芸員に作品のことを伺った。話し合いが深まるための手だてとしての紹介文は、アクセントになるので必要感を感じた。

6 指導者助言 2

○素材と授業構成について

アイディアスケッチ＝鉛筆ではなく、墨で、粘土で、立体で。必要な素材で行うとよい。楽しんでいるということは子どもにとって魅力があるということ。今回の活動の様子を分析し学習指導要領と照らし合わせて評価基準をつくとよい。そして、次年度のねらいとして設定し、そこにたどり着くように授業を構想していくとよい。また、資料や教材などは、どの段階で、どのような生徒に、何を与えていくかを考えていけるとよい。最初から与えすぎないようにしたい。主題をどのタイミングで設定するかということについては、ある特定の時点でということではなく、生徒がだんだんはっきりさせていくということを踏まえたい。最後に作品カードに書かれたことが、たどり着いた主題であってよい。

○鑑賞の授業について

教師自身の熱意と楽しむ姿勢により楽しさと学びの調和した授業が展開される。発表された鑑賞の実践では、生徒がいろいろ学び考えたうえで、最後に「自分だったら」どれを選ぶかをゴールにすると鑑賞の授業として深まるのでは。

○中学生の授業について

中学生に対しては、教師側は言えば伝わったと錯覚してしまう。小学生は本当に面白いと思わないとやらない。そこから学ぶ。また、盲学校の美術の授業でも多くを学んだ。触れることでたくさん感じている。興味を引く、進んで見たくなるためのしかけがたくさん必要であろう。

【第2分科会】

1 討議題1 「生徒が生き生きと表現力を高めたり、思いや願いを深めたりするために有効な題材の構想や、つけたい力を明確にすえた授業展開の在り方について」

(1) 「憧れのもう一人の私」表情・筋肉・ポーズ・動き・色等を要素にした彫塑。生徒が自分の表現を実感していく場、題材の設定や声かけ（評価）のあり方。（更埴西中）

①協議内容

表現したいことの根拠を確認していくことと、知識を学ぶことが生徒にとって安心感になる。生徒の思いと素材がマッチすると伸び伸びと制作できる。自画像の制作は照れくさく感じる生徒もいるが、今回の題材は、形をデフォルメさせているので、取りかかりやすいのではないかと。また、発想の段階で粘土を渡していたので、生徒たちがスムーズに主題を設定できていた。

②指導者助言

これまでの学習や生活とつなげることで、子どもの意識に沿って考えられている題材だった。主題を表現するために工夫するポイントが分かりやすく示されている点が良い。

(2) 絵の具を厚く塗り重ねる着彩と、グリザイユを用いた透明水彩風の着彩の二つの技法をもとに混色や重色による陰影に重点を置いた校内の風景画（臼田中）

①協議内容

二つの技法の習作として野菜を描いたが、本制作の「校内の風景画」とのモチーフのつながりが弱く、苦戦する生徒がいた。“〇〇を描きたい”という気持ちから表現主題を決めていきたい。アクションペインティングのように絵の具を自由に用いたときの満足感と、絵の具を使って思ったように作品が仕上がったときの満足感は別のこと。絵の具の使い方を一度きちんと押さえることは、美術教育の大切なポイントであると全員で共通認識した。

②指導者助言

生徒たちが何を根拠にして透明、不透明の技法を選択したのかを見取ることが大切。その根拠となるものが、主題。造形遊び的な活動を取り入れたときは、作品の形や色から何を感じ取れたのか見返しすることを大事にしていきたい。

(3) モダンテクニックを組み合わせたものを切り貼りし、自分の感情を表現した平面構成（丸子中）

①協議内容

心の中をテーマにするときは、題材名を工夫するとより具体的に生徒が表現主題を持てるのではないかと。単純にモダンテクニックのやり方を教えるのではなく、モダンテクニックから何を考えさせたり教えたりするのかと意識して、生徒の思いや願いが深めたい。

②指導者助言

モダンテクニックのように、偶然の形や色の面白さを感じられる題材は、初めから主題を固まらせずに、やりながら考えることも大事にしていきたい。表現から主題が生み出されていくという場合もある。作品を引き立てるために、台紙も工夫していける要素になる。

(4) 対の組み合わせや、連なるものという日本美術の概念や良さをいかした金屏風。(岡谷北部中)

①協議内容

題材を“春夏秋冬”や“桜”など具体的にすることで、表現主題を追求したり、金屏風の独特の奥行きを意識して構成を考えたりしやすくなるのではないかと。美術は個々の進度の差が生じてしまうが、道具を全員分そろえておくことや、授業前に生徒たちだけで2分間鑑賞をする時間を設けることで、生徒たちの授業への取りかかりがスムーズになるという実践が紹介された。

②指導者助言

屏風は、折り目に何を描くのか考えながら構成できるところもおもしろい。生徒たちに、“こういうことができるようになりたい”“こういうものを作りたい”と思わせるといきいきとした表現につながる。

(5) ステンシル技法の特徴をいかして、モチーフを単純化したり、色合いを工夫したりして、自分が使いたくなる手ぬぐいを制作する。(両小野中学校)

①協議内容

修学旅行を控えた2年生にとって、日本の文化を知ることのできる題材。さらに題材を日本のセンスやわびさびに迫れるものに設定できれば、さらに主題を持って取り組めるのでは。附属長野中学校では“粋な手ぬぐい”という題材での実践がある。手作業の価値や美しさを感じさせるためにステンシル技法を選択した。

②指導者助言

身近な題材で、生活の中に広がっている美術を感じられることはとても大切。題材を設定するときは、A表現(1)なのか(2)なのかをはっきりさせていく。どちらを選ぶかで、つける力や授業のねらいが変わってくる。

(6) フリードリヒが描いた2枚の「海の月の出」の鑑賞活動。友だちとの意見交換の中で「考えを深めていく」ことのできる鑑賞授業の題材について。(常磐中学校)

①協議内容

正解不正解にとらわれずに自分なりの価値基準や美意識を持たせたい。それには、色や形で判断できる根拠を持っていることが不可欠になる。「見る」ことで率直な思いをもち、作者の生い立ちや時代などを「知る」ことで、新しい価値基準をもって「考える」ことのできるのではないかと。それには、着眼点を明確にした題材設定が肝心。また、人の生き方を知ることが美術の授業になるのではないかと。どのような情報を話すのかを考えることも必要だが、作者や絵について語ることも時には必要ではないかと。

②指導者助言

鑑賞では、自分なりの見方や感じ方を持って作品と向き合えたか。自分の中に新しい価値を作り出せたかということ大切にしたい。鑑賞作品を自由に拡大できるようなタブレットの活用は、有効。実物との色合いの若干の違いは、あまり気にしなくても構わない。

2 討議題2「表現主題の高まりや表現の喜びにつながる生徒同士の関わりや学び合いの具体的な手だて」

(1) 誰かへプレゼントするための木のおもちゃの制作。「相手のため」が次第に「自分のため」となる題材の工夫や、電動工具を多く用いる場合の環境面での工夫について。(附属松本中)

①協議内容

“美術を学ぶ意義”を考えたとき、“生活”と結びつくことに目を向けた。自分で作ったものを暮らしの中に提案することで、生徒たちの“作りたい”という思いから始まる題材を設定した。相手意識を強調するより、自分の思いを大事にしながら相手のことを考えることで、表現主題の高まりがうまれた。電動工具などを巧みに扱う職人や、友人が使う様子を間近でみることで、電動工具への抵抗が薄れた。どのような題材にしても、誰かとのつながりを感じられるような作品や制作にしていきたい。

②指導者助言

子どもたちが題材に対して本当に真剣になる、これを仕掛けるために教師はエネルギーを使っていく必要がある。相手意識が造形とつながっていくと、A表現（2）になる。どうしたら相手を使いやすいかを考えていく中で、工夫が生まれてくる。相手意識は、1年生では自分の身の回り。2、3年生になると、より多くの他者への意識もしていける。

(2) 学校の中の場所（教室など）をわかりやすく伝えるマークのデザイン（長野西部中学校）

①協議内容

相手に分かりやすく伝えるためにはどのように形や色彩を工夫したら良いか、試行錯誤して考えやすいように、トレーシングペーパーにデザインの要素を描き、動かしながら構図を決められるように工夫した。意見が出しやすいように、意見交換のグループは4人までが適当。意見交換をする場面も、生徒の思いを感じ取り必要なタイミングで設けたい。相手（制作者）が求めていることを示した上で意見を言えるようにする。

②指導者助言

意見交換の場面は、人の意見を聞きたいタイミングで取り入れたい。学級によって子どもたちの求めるものが違うので、学級ごとに、相応しいタイミングで。アドバイスを鵜呑みにするのではなく、自分の考えをもちつつ、他者の意見を自分の中に取り入れるような意見交換の設定をしていきたい。

(3) ミレーが描いた2枚の「種をまく人」を比較し、どちらがサロンに出品されたかを探ることをきっかけにした鑑賞活動（附属長野中学校）

①協議内容

絵画批評家テオフィル・ゴーティエの批評文を頼りに、2枚のうちどちらの作品がサロンに出品されたかを、色、描写、空の色などから感じ取ることができた。クイズ形式だと、なぞときのようなになってしまうことがあるので、“自分だったら…”というように自分の思いが入るようにしたい。また、“このタイトルで描くなら自分はどう表現する？”というように、鑑賞する作品を自分のものにして考えるという授業展開も考えられるのではないかな。

②指導者助言

鑑賞活動では、自分なりの価値意識を持つことが重要。それがあつた上でお互いに作品について批評し合える姿を目指していきたい。

V 本年度の反省と来年度の方向

◎ 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」という大きなテーマに対し、どうすればその力を育むことができるのか思索をめぐらせることができました。 ・美術を通して「生きる力」を育むには、どんな手だてを考えていけばよいか考えられたと思う。 ・美術は他教科にはない「生きる力」の伸ばし方があると思うので、この方向でよい。 ・「生きる力」をある程度「どんな力」なのか限定してもよいと感じた。焦点を角度付けたうえで、様々な表現と鑑賞の実践が発表されるもの。難しいですが、広義すぎて実践も広い。参会者の方々もある程度焦点化された方がレポートも書きやすいのではないのではないかと思います。 ・よいと思うが、「生きる力」を育むために、授業でどのような力をつけるのかを、より意識して行っていく必要があると思いました。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・このような研究会自体があることがありがたいです。 ・内容に添えたかどうか分かりませんが、この機会により一層子どもたちのつぶやきや声を意識して取り組むことができました。 ・導入において、ワークシートを用いて前回で分からなかったことを生徒から発表してもらい、その解決方法を提示するようにして、学習課題を据えている。研究授業を通してその方法が確立されているように思う。 ・生徒の主題の深まりについて研究できた。また、その手だてについて研究できた。 ・目下の問題に追われ、木を見て森を見ざる状態に陥っていたと思う。 ・先生方の実践から学ばせていただき、とてもよかった。
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を委員会で検討し、どのように発問を行うかを計画している。現在はそれが終了し、通常の授業に戻っている。 ・テーマに立ち返ることができる機会が少なかった。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を絞っての発表を徹底したい。 ・発表時間を守り、意見交換にしっかり時間を費やした方がよい。(時間配分)
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでこまめに連絡をいただき、内容の把握がしやすかったです。 ・分かりやすく伝えていただいたと思います。 ・多くの先生方の実践がうかがえてとてもありがたいです。 ・早めに連絡をいただきありがたかったです。 ・スマホでも確認できたので、大変ありがたかったです。 ・メールを使うことは大賛成です。来年度以降も是非お願いします。 ・文書について、HPで掲載されていて、見ることができているよかった。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の皆さんのあいさつや行動にとっても感動しました。 ・参会者をさらに増やしていくために、各研究会等で呼び掛けていきたい。 ・レポートの内容や校数を決めて、絞ったものにして読みやすくした方がよい。

◎ 来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度同様でよいと思います。 ・今年度とつながるようなテーマがよいとおもいます。 ・表現主題をもつための手だて。 ・来年度も生きる力につなげた研究テーマがよいと思います。 ・「生きる力」→「造形的な要素を学ぶ」「心を開放し、のびのびと表現し、表現を楽しむ」などのサブテーマを付けてはどうか。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度同様でよいと思います。 ・常に基礎に戻り、テーマを踏まえて包括的に研究していきたい。 ・どのように子どもたちが自分の思いを作品に広げていったり、作品から思いを巡らせたりしているかを、様々な実践を通して学びたい。 ・私自身がレポートのまとめが弱いところもあるのですが、レポートでどのような力をつけているか、つけたいのかを立ち返ってまとめることを大切にすればよいと思う。
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度同様でよいと思います。 ・各学校の実践を基に、テーマに沿ったものになっているかなど討議していく、今の形のままでよいと思う。 ・振り返りシートがどのように活用されていくのかの分析を行う、発問計画を発展させていく、など。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・完成作品だけでなく、過程も分かるものを持ってくことも大切にしたい。 ・普段の実践を持ち寄る場、という色を強くしたい。(レポートや参会者を増やす観点からも)

VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料などをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。

本年度の研究会では、限られた指導時間の中にあっても、資料や題材展開、表現主題のもたせ方を工夫し、実践されているレポートが多く見られました。また、参考作品をお持ちより頂き、それぞれの学校の素晴らしい実践に学ばせて頂き、各校の生徒の実態に即して、つける力を明確にしながらか題材を構想し取り組まれていることがよくわかりました。討議においては、多くの意見や質問が出され、それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました教学指導課指導主事 赤羽勲夫先生、総合教育センター専門主事 倉澤啓先生には心から御礼申し上げます。

また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の信濃町立信濃小中学校 常田浩二先生、塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校 高野菊丸先生、細かく記録をとりお忙しい日程の中で研究のまとめにご苦労いただいた、記録の長野市立櫻ヶ岡中学校 塚田香織先生、伊那市立春富中学校 林理佐先生、数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 鈴木 大三
副委員長 鹿野 耕平